

— 公 示 — 会員大会

大阪キリスト教青年会会則25条により
2007年会員大会を次の通り開催します。

大阪キリスト教青年会
常議員会議長 長尾 ひろみ

日時：2007年5月26日(土) 午後1時～2時半
場所：大阪YMCA会館 大阪市西区土佐堀1-5-6
プログラム

1. 会員表彰 (奉仕の書に誌する会員)
2. 報告と協議
 - (1) 常議員の選任
 - (2) 2006年度事業および会計の報告
 - (3) 2007年度基本方針の説明
 - (4) 2007年度事業計画および予算の報告
3. 交流懇談の時

傍聴について

維持会員(本年3月31日現在)以外の会員は、常議員会に届け出て傍聴することができます。

希望者は5月11日(金)までに書面で大会事務局(大阪市西区土佐堀1-5-6 大阪YMCA統括本部)へお申し出ください。

大阪市・サンフランシスコ市姉妹都市締結50周年 日米親善中学生バスケットボール交流プログラム10周年

サンフランシスコ市長
ギャビン・ニューサム氏

大阪YMCAを訪問

1995年の阪神大震災の時に復興支援として多大な協力を頂いたのがきっかけで、アメリカ・サンフランシスコ市にある北カリフォルニア日本文化コミュニティセンター(JCCC)と大阪YMCAの関係が始まりました。

JCCCは1973年から同市にある日本町(ジャパン・タウン)を拠点とし日系人移民の伝統的文化交流や情報交換を行ってきた組織ですが、遠い祖国で起こった大震災に心を痛め支援を申し出たのでした。以来、毎年夏に大阪YMCAとJCCCが隔年でホストを務め、日米親善中学生バスケット

ボール交流プログラムを開催し10年に亘る両都市の友情を育んできました。そして、その交流を支援してきたのが姉妹都市であるサンフランシスコ市と大阪市の姉妹都市締結50周年にあたる記念の年であることから、サンフランシスコ市長ギャビン・ニューサム氏が大阪を訪問されることとなり、両市の関係発展に貢献してきた大阪YMCAでも市長を迎え交流会を開催することになりました。

2月19日(月)大阪YMCA会館で開かれた交流会の中でニューサム市長は、土佐堀YMCAのバスケットボールクラスの小学生メ

ンバーや昨年の親善メンバーの中学生たちと共にフリースローコンテストを楽しみ、大阪YMCAの125周年に對しお祝いの言葉と記念の楯を贈ってくださいました。そして大阪YMCAからは、子どもたちによる歌のプレゼントと中川善博理事長より感謝の言葉と記念の日本人形をお贈りいたしました。



い出になつたのではないでしょう。

最後に市長からの祝いの言葉を紹介いたします。「半世紀に亘るサンフラン

シスコ市と大阪市の姉妹都市関係は、実は皆さんのような多くの人びとによつて育み伝えられてきた人と人の交流の歴史であることを忘れてはならないと思います。中でも皆さんのような若い世代の方々によつてその交流が続けられてきたことを誇りに思います。(中略) 今日ここで一緒にバスケットボールを楽しめたことに感謝し、両市の姉妹都市50周年の記念に、また大阪YMCAの125周年の記念に、サンフランシスコ市民を代表し、この『感謝状』を授与できることを光榮に思います。」

(薩山 拓・統括本部ス

大阪キリスト教連合会・大阪南YMCA共催

2月22日(木)、大阪キリスト教連合会と南YMCA共催で毎年恒例のキリスト教オーブンセミナーが行われました。今回の講師は、大宮有博さん(名古屋学院大学専任講師)で、『アメリカのキリスト教は戦争にどう関わったか?』という世界大戦からイラク戦争まで』と題する講演をいただきました。アメリカのキリスト教が、平和主義を



訴えながらも核戦争の危機やベトナム戦争など戦争が始まると様々な形で国家に協力してきたこと、その対応の変遷をおして、アメリカの教会は、9・11以降の「危機の時」にキリスト教者が平和を創り出すために何が出来るのかを考える上で大きな学びのときを得ることができました。参加者は54名で、お茶を飲みながらの質疑応答では、活発な意見交換がなされ、皆さん熱心に耳を傾けておられました。近隣教会の信徒の方々や牧師など聖職の方を中心に、多くのご参加をいただき、実りある学びの会でありましたことを心から感謝申し上げます。(貝 容子・YMCA学院高等学校スタッフ)

キリスト教オーブンセミナー

パートナリシップの継続と 更なる発展を願って

マンダレーYMCA総主事 マウン・マウン・ウィンさん来日

大阪YMCAとマンダレーYMCAとのパート

ナーシップも、早や6年の月日が経ちました。締結当初から総主事を務めておられるマウン・マウン・ウィンさん(以下、ウィンさん)夫妻の来日は大阪YMCAとマンダレーYMCAの結びつきを、より一層強

いものにしたと確信しました。今回の来日では、交流の深い大阪なかのしまワイズメンズクラブ10周年の式典に参加され、2日間の滞在中に

この奨励金は、YMCA日本語学校在籍中、出席状況、学業成績ともに優秀な留学生の努力をたたえるものです。支給される十万円は大学、専門学校進学に必要な諸費用の一部にあてられます。これらは、国際奨励基金(賛助会助成金、クリスマス献金等)により支援されています。

2006年度 大阪YMCA 留学生奨励金受給者

国際専門学校日本語学科

金 赫

大阪YMCA学院上町校

崔 瀧仁



は大阪YMCAの様々な施設を訪れ、多くの人たちと交流されました。2月14日(水)には、大阪YMCAでウィンさんを囲む会が開かれ、マンダレーYMCAの衛生教育やデイケア等の取り組み、軍事政権下におけるミャンマーの生活事情や課題、政府とYMCAとの関係性についてご報告いただき、「わたしたちにも取り組めることは何か?」と参加者全員が心を砕いていました。物的支援は、空輸など

では難しく、人が持ち込む形でしか実現しないのとことと、やはりマンパワーが一番なのだ改めて感じました。パートナリシップを辞書で調べると「友好的な協力関係」とあります。人と人が出合い、ある目的に向かって力を合わせる。その目的こそ大阪YMCAの使命「世界の人びとと力をあわせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。」ではないでしょうか。その使命を果たしていく上でも、今回のウィンさんの来日は両YMCAの関係を深め、発展させる貴重な機会になったことと思います。(小西雄希・高槻YMCAスタッフ)